

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年1月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1592500019
法人名	社会福祉法人 くろかわ福祉会
事業所名	グループホーム黒川
所在地	新潟県胎内市黒川1287番地6 (電 話) 0254-47-0405
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 19 年 11 月 16 日

【情報提供票より】 H19 年 10 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人、非常勤 1人、常勤換算 3.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 3階 建ての 2 階 部分
------	------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	□ 有(円) ■ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	□ 有(円) ■ 無	有りの場合 償却の有無	□ 有 □ 無
食材料費	朝食 300 円 夕食 400 円 または1日あたり	昼食 300 円 おやつ — 円	

(4) 利用者の概要 (H19 年 10 月現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.3 歳	最低 70 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人白日出(黒川病院、老人保健施設やまぼうし)
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

以前は精神科病院の建物だったこともあり、地域の理解が得にくい状況であったが、開設2年目を迎え、地域の中に出ていくことにより、少しずつ地域からも認められるホームになってきている。
管理者が情熱を持って認知症ケアに取り組んでおり、それが職員にも浸透している。「私たちは、あたりまえで普通の家庭的な生活を送ることが出来るように努めます。私たちは、入居者様のプライバシーの配慮を行い、安心感の持てる支援を行います。」というホームの理念を、職員全員で話し合って決めたことにより、皆で理解し、実践に努めている。それにより、入居者も穏やかな顔をされており、本人のペースと自由が守られている雰囲気である。中には状態が改善し、自宅に退居された方もおられ、ホームでのケアの成果もみられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果を踏まえて全職員で話し合い改善に取り組んできた成果が見られる。ホーム独自のマニュアルを作成したり、鍵をかけない体制づくりを行なった。また、開設1年を経て広報誌の発行も定期的になっている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で自己評価を行い、前回評価の改善点も踏まえてサービス向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、利用者家族や町内区長、市の介護保険係や社会福祉協議会、地域包括支援センター等各関係機関等から委員として参加してもらっている。地域とのつながりについてや、建物の外観の課題など具体的な意見が出されており、今後の取り組みに活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族との関係を大事にしており、面会等が少なく遠のきがちな家族にも、意見を言ってもらえるよう電話等で積極的に働きかけを行っている。家族自らが家族会を運営し、ホーム職員が入らなくても家族同士で話し合いが行われており、それらの意見等をホームの運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム側から積極的に地域に出て行こうと努めており、地域の中でも理解されてきている。地域の祭りに参加したり、ホームの行事に地域の人達も集まるようになってきたり、日常的に地域との連携ができるようになってきている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の中でその人らしく暮らせるような支援のあり方を職員全員で話し合い、事業所の方向性として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の方向性として職員が話し合って決めたものであり、いつでも見えるところに掲げて共有し、実践している。		
2 - 2	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	家族へは入居時の十分な説明と、家族との連絡ノート「絆」への明示、広報誌の配布等の外、機会あるごとに繰り返し話しており、理解が得られている。地域の中にホームを受け入れてもらえるよう利用者と一緒に外に出ることにより、少しずつ地域の方から理解してもらえるようになってきている。	○	開設当初からのパンフレットが形式的なものであるため、ホームの理念をのせたり、ホームでの生活がよりわかりやすいものにする、ホームを紹介するときやアピールにさらに活用できるのではないかな。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りに参加したり、ホームの行事に地域の人達が大勢来てくれたりと、交流も盛んになってきている。ホームにくるボランティア慰問を近所のお年寄りも楽しみにしており、地域の方が集まる場にもなっている。又、地域の一員として廃品回収等の地域活動にも参加したり、地域の人から野菜の差し入れをいただくこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、又、外部評価や外部の意見をもとに自己点検をしたり運営者へ要望をあげるなど、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で委員から出された具体的な意見要望を職員会議等で話し合い、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と連携して入居の検討を行ったり、社会福祉協議会からも行事等に協力してもらっている。		
6 - 2	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が虐待防止について常に職員に話をしたり、職員も研修会に参加し、よく理解しており、お互いに注意を払っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	常に利用者の状態をチェック表やケース記録に記載し、面会時等に家族に報告している。また、家族との連絡ノート「絆」を個々の居室に用意し、日々職員が気づいたことや連絡事項を記入して家族に読んでもらうなど、連携を密に図れるよう工夫している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の委員に家族も入っており、意見等を反映させている。また、家族が積極的に家族会を運営しており、そこでの意見等も運営に反映させている。		
8 - 2	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を行っており、管理者は職員の意見や提案を受け取り、運営者にも働きかけてホームの運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動は極力なくしている。職員がかわる際には管理者が利用者に紹介し、ふれあいを大切にしながら利用者との関係が作れるよう努めている。		
9 - 2	18 - 2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	これまで法人関連施設のマニュアルを活用していたが、職員一人ひとりの気づきを取り入れて見直しを行い、職員会議で話し合ってからホーム独自のマニュアルを作成した。全職員に配布して周知を図っている		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修等にできるだけ参加できるようにしたり、職員も自主的に研修会に出たりしている。また、関連施設に講師の依頼をし、積極的に学べる機会を確保したり、資格取得も働きかけている。さらに職員教育の一環として、日々の業務の中で職員自身の気づきを引き出すよう、管理者からの問いかけや働きかけを積極的に行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内のグループホームと交流する機会を持ち始めたところであり、ネットワーク作りに取り組んでいる。	○	同業者と交流を持ち始めたところであり、現在は管理者、主任などの役職者同士で行なっているが、今後は一般の職員も交流する機会をつくれるよう取り組みに期待したい。
11 - 2	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員は困ったことがあると管理者に聞いたり、管理者も職員が何でも話しやすい雰囲気である。また、職員がゆったり休める休憩室も用意している。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人にまずホームを見てもらい、納得してから利用としている。最初は家族も一緒に泊まってもらったり、職員も添い寝をするなど、本人の希望を聞き、安心できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護されるだけの立場にせず、同じ立場に立ち、または人生の先輩として一緒に楽しみや悲しみを共有する関係を築いている。		
13 - 2	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係も大事にし、常に家族にも近況報告や相談をして、情報を共有できるよう働きかけている。これにより、疎遠だった家族がホームに理解を示して協力してくれるようになった例もあり、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望の把握に努め、本人が納得でき笑顔が見られる生活となるよう支援している。意向が伝えられない利用者には気持ちを理解できるように関わり方を工夫している。		
14 - 2	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を活かして、畑仕事をしてもらったり、馴染みの家具等を持ち込んでもらうなどし、これまで歩んできた人生を大切にしたい生活ができるように努めている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居当初の1週間は暫定プランを作成し、本人の様子をよく見ながら支援している。その後は、本人、家族、職員全員で意見を出して話し合い、本人が安心して生活できるような介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的または状態変化時に見直しを行っている。本人、家族、職員全員で意向を出し合って話し合い、本人の希望や現状に即した介護計画を作成している。		
３．多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々の本人の希望に応じて外出に付き添ったり、郵便局に出かけるなど支援している。医療連携体制がとられ、緊急的な受診の場合は家族に代わって職員が付き添っている。また、退居された方に対して、その丹精していた畑をいつでも見に来れるよう声をかけたり、ホームの行事に誘ったりと、ホーム退居後も継続的な関わりをもてるよう支援している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のこれまでのかかりつけ医を基本とし、家族の協力のもとに受診している。協力病院が認知症専門病院でもあり、必要時適切な医療が受けられるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現段階ではホームでの終末期の対応は行っておらず、家族にもその旨了解は得ている。利用者の状態に変化が見られた際には、今後の生活や住み替え等について家族や主治医と話し合いをし、同一法人の介護老人保健施設と連携しながら支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーへの配慮はホームの理念にも掲げ、利用者への言葉かけや態度など、職員一人ひとりが留意して対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事する時間を本人の都合に合わせて、時間がかかる方にはゆっくり食べてもらうなど、常に利用者一人ひとりのペースを大切に、本人の自由な意思を尊重した支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れた物や旬の食材を活かしたメニューにし、利用者の能力や状態に応じて準備や片づけを一緒に行いながら、職員は利用者と一緒に食事をとり、楽しい雰囲気作りをしている。時には家族も一緒に食事を楽しむこともある。		
22 - 2	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の排泄パターンに合わせ、一人ひとりの力を引き出しながら、出来る限りトイレでの排泄支援を行っている。尿便意のなかった方が尿意を訴えるようになった例もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ毎日入浴が可能である。毎日入浴する方がいたり、拒否のある方にも時間や誘う職員を替えたりと、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、洗濯干し、調理、居室掃除など個々の力を活かした役割を支援している。来客へのお茶だしやカーテンの開閉を自分の役割とされている方や、近くの小学校に自身の戦争体験談を話していくなどの社会的役割を果たした方もいられる。月2回の歌のボランティアの来訪時には、家族や地域の人達も一緒に楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所や畑に出かけたり、ホームの前の郵便局に出かけたりと、気軽に自由に出かけられるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対にしないという方向性のもとに、新人研修の時から常に話し合い、職員全員で理解して日々取り組んでいる。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠せず、センサーや音が出る飾りをつけて出入りを察知している。また、ひとりでの外出が危険な方には常に目配りして所在を確認し、外出する時は職員が同伴するようにし、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
26 - 2	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホーム独自のマニュアルを作成し、常に目配り・気配り・声かけの徹底を行うことで利用者の変化を見逃さないようにし、大きな事故につながらないように努めている。また、毎日ラジオ体操や歩行訓練を行って筋力の低下を予防したり、食事前には誤嚥防止のため口腔の運動をするなど、事故防止に取り組んでいる。		
26 - 3	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	消防士による緊急対応講習を全職員で受講して応急手当等できるようにしている。事故発生時の対応体制もつくられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	避難訓練、防災訓練を毎月行い、職員とともに、利用者にも避難することを身を持って理解してもらうようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量、水分量をチェックして把握している。家族から本人の好みを聞いて食事に取り入れたり、状態に応じた食事形態にし、摂取量や栄養バランスが確保できるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は木をふんだんに使った家庭的な設えである。季節ごとの飾りや家族の作品を飾るなど、季節感・生活感のある居心地のよい空間づくりを工夫している。	○	入り口に短いカーテンのみ設置されている男性用トイレが1か所あり、廊下から中が見える。建物の構造上の関係もあるが、より利用しやすいようプライバシーを守る配慮や工夫がされると良いのではないかと。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て使い慣れた家具や仏壇等持ち込んでもらい、本人にとって安心感があり居心地よく過ごせる居室となるよう工夫している。		